



**食料安全保障等を考える学習会・緊急全道農民集会を開催**

**～集会終了後には札幌駅前道産農畜産物を配布～**

道農連は3月30日、札幌市の第二水産ビルにて「食料安全保障と基本法見直しを考える学習会」を開催し、全道の地区市町村組織の役職員ら約300名が参加した。学習会では、東京大学大学院農学生命科学研究科の鈴木宣弘教授を講師に招き、「食料安全保障の強化と食料・農業・農村基本法の見直し」と題した講演を行った。

また、学習会終了後には、コロナ禍やウクライナ情勢等による生産資材価格の高騰などで営農継続が危機的状況にあることから、「農業経営の存続と持続可能な食料安全保障政策等を求める緊急全道農民集会」を開催。大久保明義委員長の主催者挨拶後、米・畑作農家の山口浩幸氏（空知農連書記長）と酪農家の井下清氏（豊頃町農政協副委員長）からの意見表明で、離農増加の危機感を示したほか、営農が継続できる国の支援を訴えた。続いて、出嶋辰三副委員長より「経営存続に向けた農業政策の確立と食料安全保障の強化を求める緊急決議」を提案し満場の拍手で採択され、梅田俊則副委員長の団結ガンバロウで閉会した。

なお、集会後に札幌駅前通りにて三役及び各地区代表で道産白物三品（米・砂糖・牛乳）を街行く市民に配布し、道産農畜産物の消費拡大への理解を求めた。

**第1回業態別対策委員会等で春闘対策方針などを協議**

道農連は3月28日に第1回米・水田農業対策委員会、第5回地域水田農業のあり方検討委員会、29日に酪農・畜産対策委員会、30日に畑作・野菜対策委員会を開催し、対策副委員長の選出や、2023年度春闘対策方針などについて協議した。今後は、第2回業態別対策委員会で春闘対策の提言項目を取りまとめ、6月の第3回執行委員会で最終決定し、7月中下旬に中央行動を展開する。

なお、各委員会の副委員長は、米・水田農業対策は中家彰氏（鷹栖町農連）を、酪農・畜産対策は梅田俊則氏（北見地区農連）を、畑作・野菜対策は竹迫真樹氏（全十勝地区農連）と村上寿裕氏（全上川農連）を選出した。

**3月の活動記録（上記以外）**

- 7日 道農産協会企画調整部会
- 10日 水活に関する関係団体事務局打合せ、消費税インボイス制度北海道ブロック説明会（オンライン）
- 14日 水活見直しに係る総括WG
- 18日 北海道酪農・畜産危機突破緊急集会（主催：JAグループ北海道）、農業ジャーナリストの会創設50周年記念講演
- 20日 水活見直しに係る関係機関連絡会議
- 23日 道農業青色申告会事務局会議

**4月の活動予定**

- 11日 道農業青色申告会定期総会・研修会
- 12日 三役会議、第2回執行委員会
- 14日 天北地区農民連盟定期総会
- 19日 第1回てん菜・てん菜糖合理化検討委員会

◎詳しくは、「北海道農村新聞」（年間購読料1,800円・税込）をご覧ください。

お申し込み・お問い合わせは、道農連事務局（TEL011-241-5416）まで。

道農連 HP はこちら ⇒ <http://donouren.sakura.ne.jp/>

